

エコとかわいいの二兎を追う！ in FAVO

代表者 増田悠希（国際B1年）
構成員 西川京佑（理学B1年）

1. 目的・背景

2020年7月より実施されたレジ袋の有料化を受け、山口大学吉田キャンパスにある福利厚生施設「FAVO」では、パン類を販売する際に使い捨ての紙袋を使用している。しかし毎日多くの人がFAVOを利用するため、紙袋の消費量は膨大なものとなっており、その環境への影響も大きいと推測される。そこで、紙袋の消費削減による環境負荷の軽減を目的として活動を開始した。

2. 活動内容

本プロジェクトは1年間の活動の中でその方向性を大きく変更した。そのため、変更前の活動を「プロジェクト1」、変更後の活動を「プロジェクト2」とする。

3. プロジェクト1について

プロジェクト1は、

- ①紙袋の代替
- ②デポジット制度の導入

という2点を軸とした企画であった。以下プロジェクト発足時の活動計画を記す。

「現在山口大学生生活協同組合（以下「生協」とする）運営の福利厚生施設FAVO（以下「FAVO」とする）で使用されている使い捨ての紙袋を再利用可能な袋（以下「代替袋」とする）に代替し、回収・再利用によって資源の節約を図る。また、回収率の向上を目的として電子マネーCHORUKA（以下「ちよるか」とする）を活用したデポジット制度を導入する。代替袋の性能に関しては、デザイン性の高い紙袋の持つ販売促進機能や宣伝効果を損なわない、回収の洗浄・消毒が容易な素材であるという点を重視し、そのための研究・調査も行う。

今年度の活動としては、紙袋のデザインや素材、代替袋の回収や返金の方法に関する調査を主な活動とし、年度末に生協への提案書提出、来年度以降の制度導入を目指す。」

プロジェクト1は、環境・生協・学生のいずれにもメリットをもたらし、持続可能な制度となることを目指すものとして企画した。山口大学生生活協同組合フードサービス事業店長の井上様と、提案予定であったデポジット制度に関する打ち合わせを行い、経営側の視点からのご意見をいただくことができた。その際、食品を直接入れる物ではなく、回収毎に洗浄や消毒を行うとしても衛生面での不安があり、袋の使用に抵抗があるというご意見をいただいた。そのため、プロジェクト1を断念し、プロジェクト2に移行した。

4. プロジェクト2への移行

プロジェクト2では、FAVOで販売されているオリジナルエコバッグ（以下「FAVO バッグ」とする）に着目し、その利用を促進することで紙袋の消費削減を目指す企画を立案・提案した。

5. プロジェクト2の企画概要

- ・紙袋の有料化
 - ・FAVO バッグ利用に伴うスタンプカード制度の導入
- の2点を軸とする。

FAVO バッグを持参した購入者にスタンプを押し、規定の個数を集めることによって、FAVOで利用可能なクーポンと交換可能とする企画を提案する。

6. プロジェクト2の活動内容

プロジェクト2の有効性の検討や提案の根拠とするため、学生を対象として①アンケート調査、②グループイ

ンタビュー、③ユーザーテストの3つの方法で調査を行った。

6-1 アンケート調査

FAVO の利用状況やエコバッグに関するアンケート調査をオンラインで実施した。(実施期間：2021/12/19～2022/1/11) FAVO バッグの知名度に関するデータ収集、大学生の環境に配慮した行動やエコバッグの利用に対する意識などを調査することができた。

6-2 グループインタビュー

学部・性別の異なる複数人の学生の協力の上で、FAVO バッグと類似したエコバッグを比較して意見を聞くグループインタビューを実施した。(2021/12/21, 2021/12/23 に実施)

比較対象となるエコバッグは同価格帯かつ FAVO のコンセプトに沿うものとし、大きさ・色・素材・機能の異なるものを11個用意した。それらのエコバッグを比較し、デザイン性の高さやFAVOでのパン購入時という場面における機能性について意見を収集した。

6-3 ユーザーテスト

実際にFAVOでパンを購入する際に紙袋の代わりにFAVOバッグを使用してもらい、デザインや使用時の利便性などに関する意見を調査した。ユーザーからの意見を一部抜粋し、下記に記す。

- ・今まで紙袋をかばんに入れていたため、片手がふさがることが気になる
- ・サイズ感がちょうどよい
- ・かばんに入れてみたところ、伸縮性があるため紙袋より入れやすかった
- ・使用していないときの畳み方が分かりにくい
- ・畳む際に使うスナップ付きの紐を、中に入れたものが飛び出さないように使えると便利だと思う

グループインタビューとユーザーテストにより、学生の声を取り入れて作られたFAVOバッグが学生の利用におけるニーズを満たしており、使い勝手が良いことが判明した。

7. 成果

本活動の最終成果物として、プロジェクト2で検討したシステムを提案するための提案書を作成し、実際に生協で働いている方との打ち合わせを行った。

企画の内容に関しては、袋詰めがセルフサービスになることによるレジの混雑、紙袋の有料化に伴うその他の使い捨ての備品への対応、学生への負担増大などの課題点についてご指摘いただいた。実際に経営に携わる方の視点からのご意見を伺うことができ、新たな発見や学びが多くあった。

8. 活動を通して

本年度の活動における最大の反省点は、準備や計画性の不足である。年間のスケジュールを考慮しないまま活動した側面が否めず、期間の不足によって十分な活動が行えなかったと感じた。10月に大きく方針を変更したこともあり、今年度中に制度導入まで到達することができなかった点は悔やまれる。またアンケートに関しても、回答者の属性に関する項目の欠如や回答数の不足など、改善点は多く挙げられる。加えて生協の方にご連絡させていただく中で、ビジネスという場面における活動上の不備や社会人として持つべき感覚についてもご指摘いただいた。これらは、今後の様々な活動のみならず社会で働く時にも生かされる有意義な学びであり、貴重な経験となった。

1年間を通して、自主活動ルームの石井コーディネーターをはじめ、国際総合科学部の星野晋先生、山口大学生生活協同組合フードサービス事業店長の井上様、並びに調査にご協力いただいた学生の皆様など、多くの方々の支えによって活動することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。